

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午前 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B
開始時刻	S1 林学史	S8 地域の森と暮らし	S7 樹木の環境適応			T2 保健休養	T3 森林の放射能
9:00	S1-1 見果てぬ夢：経緯主義・現場主義に根差した多様な森林施策の成立：大住克博（大阪市立自然史博物館）	S8-1 地域の森林を活かしたこれからの暮らし：徳地直子（京都大学）	S7-1 近年分かってきたダケカンパの生態と環境適応研究の意義：相原隆貴（筑波大学）			T2-1 発表取り消し	補苀説明
9:15	S1-2 抽象化・普遍化の近代科学と黎明期の森林水文学：田中隆文（名古屋大学）	S8-2 官民連携で地域の価値を生み出す事業—多様なステークホルダーと森をひらく：松本剛（株式会社飛騨の森でクマは語る）	S7-2 異なる気候条件下におけるダケカンパの気孔密度とサイズの変化：黒一画（東京大学）			T2-2 Potential of controlled natural tree regeneration (CNR) for urban forest management in Kampala, Uganda；キバラムマビン ボグレ（Tokyo University of Agriculture）	T3-1 航空機モニタリングによる森林の放射性Cs沈着量の時間変化は何を示すか：金指芳（福島大学）
9:30	S1-3 "林学"以前—近代学問の博覧強識：三島美佐子（九州大学総合研究博物館）	S8-3 製材所が考える、木の文化と産物のあわい：及川幹（株式会社やまかわ製材所）	S7-3 共通圏におけるダケカンパの被食量と防御形質の集団間変異：双木寛人（東京大学大学院）			T2-3 内的作業モデルの対象としての風景（第2版）：尾崎勝彦（大阪公立大学）	T3-2 筑波山森林における表層土壌の交換性¹³⁷</SUP>Cs存在割合の変化：越川昌英（国立環境研究所）
9:45	S1-4 森林利用学における技術革新：酒井秀夫（日本木質バイオマスマテリアル協会）	S8-4 官民連携で地域の価値を生み出す事業—多様なステークホルダーと森をひらく：井上彩（株式会社飛騨の森でクマは語る）	S7-4 How Environment and Provenance Shape Soil and Root Fungal Diversity in <i>Betula ermanii</i> : Insights for Forest Conservation: Aye Myat Myat Paing（東京大学）		経費1	討論・調整	T3-3 樹皮中の¹³⁷</SUP>Cs濃度の長期変動：外樹皮の汚染はどこまで低減しているか？：大橋伸太（森林総合研究所）
10:00	S1-5 輸入学知・在来知のキメラとしての造園・ランドスケープ分野の展開と林学：水内祐輔（金沢大学）	S8-5 飛騨地域における林業利用の変容—森林資源は利用されているか：中津川慎太郎（京都大学）	S7-5 ダケカンパ産地試験地における萌芽特性と種子採取地の環境特性：荻谷楓香（信州大学）		D-1 体積から表面積へ—コンバチブル幹表面積式—：井上昭夫（近畿大学）	T2-4 ビル街の真ん中で森林浴：大手町の森が示す都市林の効力の解明：高山聡理（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）	討論・調整
10:15		S8-6 「環境ものさし」ではかる広葉樹林業の特長可能性：浅野恒史（京都大学）	S7-6 ダケカンパの萌芽様式と潜伏芽分布パターンの関係性：本間航介（新潟大学）		D-2 森林生態系多様性基礎調査を用いたスギ・ヒノキの地域別成長モデルの推定：横山新樹（京都大学）	T2-5 地域の森林を活用した森林療法研修会の4事例：上原嗣（東京農業大学）	T3-4 林分における落葉層の有無が広葉樹の放射性Cs蓄積量に与える影響：山村充（国土防災技術株式会社）
10:30		S8-7 広葉樹のまちづくりにおける市民参加—MSC手法を用いた評価の試み：時任美乃理（京都大学）			D-3 スギ—赤松の鉛蓄・水平競争と直径成長の比較：田中邦宏（国研）森林総合研究所 関西支所）	討論・調整	T3-5 落葉除去による森林流域での水質形成及び ¹³⁷ Cs流出機構の解明：永田祐太郎（筑波大学）
10:45		S8-8 飛騨市出身者を対象としたアンケート調査から聞こえてきたこと：法理樹里（農林水産省 農林水産政策研究所）		林政1	討論・調整		T3-6 安定同位体セシウムを用いたヒノキの放射性Cs循環解析：坂下渉（森林総合研究所）
11:00			A-1 阿蘇地域の草原が通った森林への変遷過程：八巻一成（森林総合研究所）	D-4 全天球カメラによる林内計測手法の開発：金森匡彦（一般社団法人日本森林技術協会）			T3-7 鹿島線の森林における野外露床栽培キノコの ¹³⁷ Csの移行と蓄積：渡邊未来（国立環境研究所）
11:15			A-2 京都大学上賀茂試験地の移転に京都府と京都府政部はどのように関わったのか：坂野上なお（京都大学）	D-5 ドローンとAIを活用した上田市森林境界明確化と林相タイプ別区分：原佳輝（精密林業計測株式会社）		討論・調整	
11:30			A-3 日本の森林政策の非民主体：筆者の視点から：熊谷千代子（東京大学）	D-6 U A V レーザ計測と地上調査の併用による森林計測の有効性：千葉幸弘（日本森林業振興会）			ポスター紹介
11:45			討論・調整	討論・調整			ポスター紹介
12:00		学会企画1					
12:15							
12:30		ランチョンミーティング「困りごとを共有しよう！ Part2」※12:00開始					
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

ポスター発表のコアタイム（対面会場）

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午前 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	S10 林野公共のあり方	S6 生理部門シンポ	S12 さし木の根系	委員会等		S9 大船渡林野火災	T6 デジタルツイン
9:00	S10-1 「林野公共事業を問う」ことの現代的意義と研究課題：佐藤宣子（九州大学）	S6-1 ユーカリから単離されたアルミニウム無毒化タンニンの生合成機構の解明：山崎千尋（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）	S12-1 挿し木不定根誘導シグナルと育成環境に基づいた不定根誘導メカニズム：渡辺敦史（九州大学大学院）			S9-1 林野火災後の樹幹火傷調査と森林変化の長期モニタリング：峠憲哉（京都大学）	T6-1 フォレストデジタルツイン構築に向けたVTOLによる広域森林計測：瀬誠志郎（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）
9:15	S10-2 日本全土の過去37年間における皆伐・再造林状況と天然林景観構造の変化：教重涼子（九州大学）	S6-2 樹木生理学と環境造林：小島克己（東京大学）	S12-2 土砂災害防止機能発揮に向けたスギ挿し木品種における根系構造の理解：吉村知也（九州大学大学院）			S9-2 大船渡市林野火災の復旧に向けた岩手県取組：菊地明子（岩手県）	T6-2 非皆伐林分における新たな計測技術の提案：趙康（ジオサーフ株式会社）
9:30	S10-3 豪雨による表層崩壊の発生要因に保安林制度が与える影響：金子徹平（九州大学）		S12-3 近年九州地方で発生した斜面崩壊と森林による崩壊土砂制御の事例：水野秀明（九州大学）			S9-3 林床可燃物が燃焼強度に及ぼす影響と林野火災後の影響評価に向けた取り組み：吉藤奈津子（国研） 森林研究・整備機構）	T6-3 下層木損傷最小化のための伐倒作業：大塚大（国立研究開発法人 森林研究・整備機構）
9:45	S10-4 地域森林計画や届出情報に基づく全国および東北地方の伐採や造林の状況：富山啓介（岩手大学）		S12-4 センダンの隠れた根の機能：樹齢にともなう根系変化と根ざし増殖の可能性：向井伸生（宮崎県林業技術センター）			S9-4 大規模林野火災による林木被害の形態と火災後の植生回復：浜井敦（森林総合研究所東北支所）	討論・調整
10:00	S10-5 地域森林計画別に見た戦後造林の人工林前生植生：上野竜大生（九州大学大学院 生物資源環境科学府）					S9-5 林野火災が土砂流出と植生に及ぼす影響：松本一穂（岩手大学）	T6-4 TLS計測から構築したQSMによる森林光環境シミュレーション：飯塚園純平（東京大学）
10:15	S10-6 我が国の林家機械化の何が失敗だったのか？—岐阜地方の皆伐地を事例として：吉村哲彦（鳥根大学）					S9-6 林野火災が森林生態系の物質循環に与える影響：五十嵐康記（筑波大学）	T6-5 高性能サーバーを用いた大規模点群処理による樹木解析：飯倉健太（ImVisionLabs株式会社）
10:30	S10-7 流域の森林変化がダム堆砂量に及ぼす影響：廣治光一郎（東京大学）					S9-7 火災後の生態学的記憶と森林管理—土壌微生物相が示す復元力—：上村真由子（日本大学）	T6-6 林野事業補助金のデジタル申請・検査情報のデジタルツインへの活用戦略：高橋正義（森林総合研究所）
10:45	S10-8 北海道十勝地域における造林補助金の民間構造：尾分達也（北海道大学大学院農学研究院）						討論・調整
11:00							T6-7 4D FMCW LiDARを使った3D環境地図の構築：西川祐矢（ジオサーフ株式会社）
11:15							T6-8 3D地形データを搭載したゲーム機型ハードウェアシミュレータ開発の試み：和田陽一（エアロトヨタ株式会社）
11:30							討論・調整
11:45							
12:00							
12:15							
12:30							
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

日林誌
編集委員会

ポスター発表のコアタイム（対面会場）

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午後 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	T1 生物多様性保全	S4 熱帯林適応策	S11 持続的な発電事業		特用林産	防災・水文1	T7 ネットゼロ森林
14:15	補足説明	S4-1 Enhancing resilience to tropical timber species in terms of species distribution model; 津山 義太郎 (森林総合研究所北海道支所) ら	S11-2 エアビットコミュニケーションズ (株) の取り組み; 谷脇 勝久 (エアビットコミュニケーションズ (株))		N-1 気候変動に伴うマツタケ発生期間の変化-約半世紀の調査結果から; 吉川 仁 (長野県森林総合センター) ら	J-1 鉛直流と傾斜方向流の違いを流出応答と湧水形成の観点から考える; 谷誠 (京都大学)	T7-1 森林管理シミュレーターを用いた森林生態系における材収支の評価; 潘井 寿夫 (森林総合研究所) ら
14:30	T1-1 非保護区での鳥類の減少: 17年間の全国での繁殖期と越冬期のモニタリング; 河村和洋 (森林総合研究所) ら	S4-2 インドネシアの有用林業樹の遺伝的起源と温暖化後の将来の種群動態の推定; 津村 義彦 (筑波大学) ら	S11-3 木質バイオマスの現状と事業継続性に関する考察; 佐藤 政宗 (株式会社森のエネルギー研究所)		N-2 発表取り消し	J-2 山地森林流域の流出平準化機能を定める要因の推定; 杉山 寛樹 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	T7-2 日本の森林のNBP推定の試み; 小南 裕志 (森林総合研究所) ら
14:45	T1-2 気候変動下の海岸林枯死と生態系サービスの経済評価; 大森 結衣 (京都大学)	S4-3 Eco-physiological approach to identify resilience of tropical timber species; 河合 清定 (国際農林水産業研究センター) ら	S11-4 地域産ヤナギ類によるバイオマス発電所向け燃料生産の試み; 関子 光太郎 (富山県農林水産総合技術センター 森林研究所) ら	T8 調和的木エネ利用	N-3 マツタケ胞子の接種方法の検討; 藤田 徹 (京都府農林水産技術センター)	J-3 斜面観測から推定される降雨から流出への変換メカニズムとそのモデル化; 中島 永裕 (滋賀県琵琶湖環境科学センター) ら	T7-3 マツ枯れによる森林擾乱が引き起こす炭素損失リスクの全国評価; 平田 晶子 (森林総合研究所) ら
15:00	T1-3 日本の人工林における鳥類多様性保全: 分布モデルと林分経済価値からの考察; 山浦 悠一 (森林総合研究所) ら	S4-4 Transcriptome approach to identify resilience of tropical timber species; Sudarmonawati Enny (National Research Innovation Agency) ら			討論・調整	討論・調整	討論・調整
15:15	討論・調整	S4-5 Enhancing Resilience to Tropical Timber species Using Genomic Selection Model; Meinanta Alnus (University of Tsukuba) ら			N-4 マツタケ感染面を移植した機殻伐採跡地におけるマツタケDNAの面的分布; 成松 真樹 (若手県林業技術センター) ら	J-4 林地における水資源調養機能 (貯留機能) の簡易評価手法; 大野 亮一 (国土防災技術株式会社) ら	T7-4 主伐を伴う人工林の炭素の固定期間に基づくクレジット発行方法の検討; 佐藤 雅生 (東京農工大学) ら
15:30	T1-4 スギを植栽したのに広葉樹林になるのはどのような場所か—山形県北部の例—; 野口 麻穂子 (森林総合研究所東北支所) ら	S4-6 Implementation in tropical forestry through mass propagation of selected individuals and superior trees; 山岸 祐介 (住友林業株式会社) ら			N-5 原木シヤケホダ場における有効積算温度の人工衛星からの推定; 川本 啓史郎 (長崎県農林技術開発センター) ら	J-5 流域スケールでの洪水の発生・滞留・流下条件を考慮した流出特性の評価; 中島 啓太 (名古屋大学) ら	T7-5 林分と木材製品の蓄積変化および代替効果を考慮した炭素排出量長期評価; 岡本 泰 (森林総合研究所) ら
15:45	T1-5 王子ホールディングスの保持林への取り組み; 豊島 悠哉 (王子マシメントオファイス株式会社) ら	S4-7 林業種や林業施策が生態系機能に及ぼす影響; 土壌GHG動態の観点から; 近藤 俊明 (国際農林水産業研究センター) ら	補足説明		討論・調整	J-6 花崗岩基岩に貫入したドレイト岩脈が山地流域の流出過程に与える影響; 平尾 理雄 (信州大学) ら	T7-6 伐採木材製品による炭素貯蔵効果の推定; 森井 拓哉 (森林総合研究所) ら
16:00	T1-6 保持林業および類似する実践事例の収集; 山中 彰 (森林総合研究所) ら	S4-8 Sustainable Use of Forest Resources and Improvements in Livelihoods for Forestry Farmers: Triana Novelia (Nagasaki University)	T8-1 地域産ヤナギ類によるバイオマス発電所向け燃料生産の試み; 関子 光太郎 (富山県農林水産総合技術センター 森林研究所) ら		討論・調整	討論・調整	T7-7 伐採木材製品の炭素貯蔵量推計にむいた建築物の寿命解析; 加用 千裕 (東京農工大学) ら
16:15	討論・調整	S4-9 Achievement of nationally determined contributions (NDCs) and adaptation plan in Indonesian LULUCF sector; Widiyatno (Universitas Gadjah Mada) ら	T8-2 山岳地域の道路規格を考慮した未利用材利用可能量推計; 有賀 一広 (宇都宮大学)		J-7 斜面形状が降雨流出ピークに及ぼす影響に関する数値シミュレーション; 小杉 賢一朗 (京都大学)	討論・調整	
16:30			T8-3 木質バイオマス燃料及びバイオ炭の国際標準化の動向と課題; 吉田 貴敏 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構)		J-8 森林流域における地表面および基岩面地形から見た湧水構造と流出の関係; 藤山 正則 (京都府立大学) ら		
16:45			討論・調整		J-9 風化岩盤内の地下水位観測による流域貯留機能評価; 猪越 翔大 (名古屋大学大学院) ら		
17:00			T8-4 製材工場の木材乾燥エネルギーについて; 久保 山裕史 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら		J-10 Measurement and modelling of the late winter snow depth over Mt Dairoku in central Hokkaido; Chandrathilake Thilakawansa (THE UNIVERSITY OF TOKYO) ら		
17:15			T8-5 真庭地域における林業クラスターを基盤とするバイオマス活用システム; 津田 直美 (真庭バイオマス発電株式会社) ら		討論・調整		
17:30			T8-6 環境・社会・経済のバランスがとれた木質バイオマスエネルギー利用の論点; 横田 康裕 (森林総合研究所)				
17:45			討論・調整				
18:00							
18:15							
18:30							
18:45							

研究発表題目 (企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月18日午前 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B
開始時刻	S2 森林サービス産業	立地	造林1	林設3	経営3	風致・観光1	動物・昆虫1
9:00	S2-1 マレットゴルフによる森林の持続的利用: 三木敦朗 (信州大学)	I-1 スギヒノキ人工林における斜面位置による土壌温室効果がスフラックス特性: 飯田匡司 (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所) ら	E-1 立山のスギ巨木のサイズと樹形一樹形から遷移期の森林利用を読み解く: 杉田久志 (富山県立山カルデラ砂防博物館) ら	A-14 低等級木材の有効利用による家具の新たな価値創造: 炭素固定効果の算出: 徳永友花 (東京大学大学院農学生命科学研究科) ら	D-17 北海道・道東地域を対象とした森林計測と樹種判別 ①計測と点群解析: 矢口慎 (株式会社かたがみ) ら	B-1 発表取り消し	L-1 クマ割ぎ対策としての遠歩型忌避剤の効果: 柳澤賢一 (長野県林業総合センター) ら
9:15	S2-2 森のようちえんの森林利用: 丹羽美之 (京都先端科学大学)	I-2 高山性木本植物の根根を介した栄養獲得戦略: 異なる環境タイプ間の比較: 廣訪竜之介 (信州大学大学院) ら	E-2 Relative stress on a tree stem in even and uneven-aged forests in Slovenia: 上村佳宗 (信州大学) ら	A-15 わが国における梱包材製材の展開: 嶋瀬拓也 (森林総合研究所)	D-18 北海道・道東地域を対象とした森林計測と樹種判別 ②分類精度の評価: 緒方誠二郎 (鹿島建設株式会社) ら	B-2 Which Pathways lead to Higher Collaboration Satisfaction?: Social Network and IsQCA Study for Minami-Alps EcoPark: 王安華 (東京大学) ら	L-2 適応的多様性指標に基づくツキノワグマ地域集団の評価と保護管理への検討: 小井土葉々子 (京都大学) ら
9:30	S2-3 都市に残された里山が創発する多元的活動: 藤田龍人 (徳島大学)	I-3 土壤微生物群集の深度方向の変化と窒素・炭素無機化速度との関係: 中山理智 (岡山大学) ら	E-3 石狩川源流地域における風倒後70年間の林分推移: 高井武 (森林総合研究所) ら	A-16 増乾用薪の生産流通構造: 清水浩貴 (鹿児島大学) ら	D-19 ALOS-2フルポリメトリデータを用いた複数樹種の樹高推定: 藤井翔宇 (東京ガス株式会社)	B-3 文献調査からみる国立公園の利用と今後の展望: 小山峻 (東京農業大学)	L-3 信州伊那谷におけるツキノワグマ <i>Ursus thibetanus</i> の機能的連結性評価: 松本拓馬 (筑波大学) ら
9:45	S2-4 関係性価値の観点から考える森林サービス産業と多様な森林利用: 山本悠次 (若手大学)	I-4 常陸太田試験地における皆伐後の窒素動態の経年変化: 藤橋佑星 (京都大学大学院) ら	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
10:00	S2-5 無住化集落における人と「ヤマ」との関わり: 岡田航 (尚絅学院大学)	I-5 Regional Drivers of Stream Nitrate in Forested Watersheds of Kyushu Main Island: MaungNay Lin (Kyoto University) ら	E-4 ハイブリッド型苗木生産システムによるカラマツ苗木の造林後の生育評価: 清田陽子 (株式会社大林組) ら	A-17 里山ボランティアの担い手となるシニアの人物像について: 石山晴也 (東京農業大学)	D-20 Assessing Forest Change in Ridge-to-reef Landscape of Solomon Islands using Multitemporal Satellite Data: BeuMclessey (新潟大学) ら	B-4 やんばる国立公園における入域料に関する支払意思額と規定要因: 清水智文 (名古屋大学) ら	L-4 2024年秋に鳥取県で大量捕獲されたツキノワグマの特徴: 西谷介 (鳥取県林業試験場)
10:15		討論・調整	E-5 ハイブリッド育成苗木の成長予測モデル化手法の検討: 下山真人 (株)大林組) ら	A-18 行動変容理論に基づく森林の多面的機能に資する森林所有者の管理行動の分析: ミツ井聡美 (筑波大学) ら	D-21 Assessing Orthophoto Accuracy from Aerial Photographs through Various Image Scanning and Digital Acquisition Methods: Kyaw Win (Forestry and Forest Products Research Institute) ら	B-5 富士山登山客管理戦略の現状と課題: 寺嶋竜雄 (静岡県立大学)	L-5 センサーカメラによるシカ捕獲の効果検証: 園田英和 (熊本県東北広域本部) ら
10:30			E-6 Changes in Soil Nitrogen Dynamics after Clearcutting and Reforestation at the Hitachi Ota Experimental Site: -- (Kyoto University) ら	A-19 佐久地域におけるカラマツ林伐後の再造林促進要因の検討: 岸野奏 (東京大学大学院) ら	D-22 ドローンによる広葉樹林の3D 樹木樹型と樹種分類: 寛井秀 (精密林業計測株式会社) ら	B-6 統合モデルによる国立公園の経済評価: ビッグデータとWebアンケートの分析: 栗山浩一 (京都大学) ら	L-6 自山におけるエノシロカの侵入状況調査2025年—自動撮影カメラと食痕調査—: 近藤崇 (石川県白山自然保護センター) ら
10:45		討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
11:00			E-7 持続的な広葉樹林施策に取組む山形県東部地方の共有林の事例: 齋藤智之 (森林総合研究所) ら	A-20 タンザニアにおける REDD+ 政策の進展—セーフガードに着目して: 堀嶋崇 (亜細亜大学)	D-23 広葉樹林におけるICTを活用したバイオマス資源量推計に関する研究: 戸橋ななみ (芝浦工業大学) ら	B-7 公的地理情報を用いた登山道の魅力度や体力要求量の可視化: 松浦俊也 ((国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所)	L-7 EPN共生細菌の分布によるマツ材腐病予防効果の検証に向けた予備試験: 小澤壮太 (国立研究開発法人森林研究・整備機構) ら
11:15			E-8 鳥取県におけるスギ特定苗木植栽1年目の成長: 赤井広野 (鳥取県林業試験場)	A-21 防衛による林業被害軽減の現状と課題: 垂水聖紀 (国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所四国支所) ら	D-24 造林補助の利害不一致のもとで自給供給量を満たす木材生産林の分布と面積: 守口海 (信州大学) ら	B-8 登山道維持管理における登山道台帳の必要性: 大宮徹 (NPO法人 富山県自然保護協会) ら	L-8 マツノマダラカミキリに有効なRNAi農薬の開発に向けて: 柄野巴瑛 (森林総合研究所) ら
11:30			E-9 北海道東部における天然林採伐施策の長期動態: 吉田俊也 (北海道大学)	A-22 航空レーザ計測データを用いた森林GISによる林業収益性の可視化: 金山知広 (元京都大学) ら	D-25 近自然型林業における苗木方法の国際比較: 北海道とスロベニアでの実践事例: 小林敬行 (東京大学北海道演習林) ら	B-9 野付風連道立自然公園の国定公園化に対する地域関係者・利用者の意識: 栗甲哲也 (北海道大学) ら	L-9 オオアカズヒラタバチから検出された細胞内共生細菌ボルバキアについて: 相川拓也 (森林総合研究所) ら
11:45		討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
12:00		<p>ポスター発表のコアタイム (対面会場) (高校生ポスター: 12:00-14:00) [一般ポスター: 13:00-14:00]</p>					
12:15							
12:30							
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

研究発表題目 (企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月18日午前 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	S3 フォレストー比較	遺伝・育種1	微生物1			防災・水文2	利用
9:00	S3-1 届旨説明	F-1 葉緑体DNAの変異と倍數性および形態に基づくオオズミの分類学的再検討: 工藤舞泉 (東京大学大学院) ら	M-1 山口県のスギ・ヒノキコンテナ苗で発生した病害: 吉岡隆人 (山口県農林総合技術センター) ら			J-11 地すべり斜面の拡大崩壊を引き起こした豪雨と地下水の観測事例: 浅野志穂 (国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	K-1 常陸太田試験地における作業道の土壌諸特性の経年変化: 北原壮吾 (京都大学大学院) ら
9:15	S3-2 日本における現場フォレストーの認識: 石崎涼子 (森林総合研究所) ら	F-2 フモトミズナラの遺伝的変異の地理的変異: 井上元貴 (岐阜大学大学院) ら	M-2 スギとヒノキの苗立枯病から分離された <i>Fusarium</i> 属菌の病原性: 市原優 (森林総合研究所関西支所) ら			J-12 森林と豪雨災害に関する予備的検討: 秋田康裕 (九州大学)	K-2 山岳地域の道路網での経路分析による道路規格区分を考慮した運搬効率の検討: 鈴木保志 (高知大学) ら
9:30	S3-3 台湾における現場フォレストーの認識: 菅田敬太郎 (国研) 森林総合研究所九州支所)	F-3 Ancient genetic contact between Korean and Japanese subalpine firs, <i>Abies veitchii</i> and <i>A. koreana</i> : WorthJames (国立研究開発法人森林総合研究所)	M-3 木材変色菌 <i>Chalaropsis thielavioidea</i> のスギに対する病原性評価: 升屋勇人 (国研) 森林研究・整備機構) ら			J-13 力学モデルによる樹木質量の推定: 鳥田宏行 (苫小牧工業高等専門学校) 校) ら	K-3 タワーヤード作業を考慮した特定の道路網の設計支援手法の検討: 矢部浩 (鳥取県林業試験場)
9:45	S3-4 インドにおける現場フォレストーの認識: 大田真彦 (長崎大学)	討論・調整	討論・調整			討論・調整	K-4 森林水系の高精度抽出に向けたDEM精微度・前処理・アルゴリズムの検討: 瀧川端己 (東京農工大学大学院) ら
10:00	S3-5 フィリピンにおける現場フォレストーの認識: 眞山アツコ (久留米大学)	F-4 サワラとヒノキの乾道環境における適応的遺伝子浸透の可能性: 堀部真生 (岐阜大学) ら	M-4 北海道東部のアカエゾマツ林における地表更新の成否と土壌病原菌の関係: 岩切結佳 (東京大学大学院) ら			J-14 一ツ瀬川上流部における崩壊地の植生回復予測モデルの構築: 篠原慶規 (宮崎大学) ら	K-5 マレーシア・サラワク州における森林モルメ・機械学習によるシナリオ解析: 大場真 (東北工業大学) ら
10:15	S3-6 インドネシアにおける現場フォレストーの認識: 志賀真 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	F-5 ヒノキ科3種のゲノム解読により見出された染色体構造変異: 白澤雄太 (かずさDNA研究所) ら	M-5 日本でユウカリ類の病原菌に見出された <i>Colletotrichum</i> 属菌とその病原性: 坂上大貴 (東京大学) ら			J-15 2024年能登半島地震後に見出された森林での幹折れの因果把握: 出村航大 (宇都宮大学) ら	K-6 シミュレーションを用いた森林条件に対する自己位置推定精度の検証: 半込広幸 (森林総合研究所)
10:30		F-6 プナ科植物スタジイとカケミガシのハプロタイプレベルでのゲノム解読: 實下愛梨 (九州大学) ら	M-6 枯損状況の異なるカラマツ幼樹木における感染ナラタケ属菌の違い: 和田尚之 (北海道立総合研究機構林業試験場) ら			J-16 火山灰降下の影響を受けた茨城県常陸太田市の花崗岩丘陵地における土層発達: 渡部卓磨 (森林総合研究所) ら	討論・調整
10:45		討論・調整	討論・調整			討論・調整	K-7 ニューゼランドのウィンチアシストシステムと日本型普及モデルの検討: 佐々木尚三 (KITARINラボ) ら
11:00		F-7 クローン検定法のレガシーデータによる空間自己相関を考慮した樹高成長評価: 江島洋 (佐賀県林業試験場)	M-7 木根による打音の異常はどのような病害を反映しているか: 広葉樹での事例: 山下聡 (森林総合研究所) ら			J-17 UAVで観測した台風風倒被害分布と気象・地形対応CFD解析との比較評価: 米津充 (鳥取大学)	K-8 Towards Data-Driven Modeling of Cut-to-Length Harvester Productivity in Japan: LahsenSteffen (東京大学) ら
11:15		F-8 異なる日長下におけるスギ3系統の成長の応答及び地上部/地下部比の変化: 黒澤陽子 (森林総合研究所林木育種センター) ら	M-8 交配型遺伝子を用いたカラマツ先枯病菌の種特異的プライマーの開発: 服部友香子 (森林総合研究所) ら			J-18 発表取り消し	K-9 ガス化CHPに適したチップ作成のための切削装置の要件: 若岡正博 (東京農工大学) ら
11:30		F-9 第2世代精製樹 (サガンズキ) の採種台木のシュートフェノロジー: 柴田晴矢 (佐賀県林業試験場) ら	M-9 鹿園床の再培養によって誘導された疎水・親油性の発現—油吸着材への応用—: 陶山大志 (鳥根県中山間地域研究センター)			J-19 森林斜面における土壌乾燥の違いを決める立地・土性条件の数値的検討: 関口寛人 (森林総合研究所) ら	K-10 ヒノキ伐倒木の倒伏速度および慣性モーメント: 松本武 (東京農工大学大学院)
11:45		討論・調整	討論・調整			討論・調整	討論・調整
12:00							
12:15							
12:30		ポスター発表のコアタイム (対面会場) [高校生ポスター: 12:00-14:00] [一般ポスター: 13:00-14:00]		森林科学 編集会議		ポスター発表のコアタイム (対面会場) [高校生ポスター: 12:00-14:00] [一般ポスター: 13:00-14:00]	
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

研究発表題目 (企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表) 3月18日午後 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B
開始時刻	学会企画3	植物生態	造林2	林政4	経営4	風致・観光2	動物・昆虫2
14:15	高校生ポスター表彰式	W-1 タケササ類一斉開花を予測し待ち伏せする～長野県スズダケの開花前年動向～ 小林慧人 (森林総合研究所関西支所) ら	E-10 ニホンジカ不嗜好性早生樹「アブラギリ類」の可能性: 大場孝裕 (静岡県) ら	A-23 都市住民の森林への関与意欲からみた都市と農村連携による森林整備の方向性: 石佳凡 (早稲田大学) ら	D-26 森林薄に頼らない森林管理: メッシュデータによる森林情報管理の試み: 村上拓彦 (新潟大学) ら	B-10 沖縄本島における緑化樹木生産の現状: 藍嶋将司 (琉球大学) ら	L-10 熊本県が里山生物多様性に与える影響の考察: 西本里美 (三井共同建設コンサルタンツ株式会社) ら
14:30		W-2 温帯林における木本性つる植物の増加に対するクローン繁殖と覆土の役割: 森英樹 (森林総合研究所) ら	E-11 異なる土壌条件に複製した同一家系のセンダングサの成長について: 森田寛 (鳥取県林業試験場 森林管理研究室)	A-24 熊野古道伊勢路における種識や文化財等の管理状況: 平山和虎 (東京大学) ら	D-27 リモートセンシングによる森林ゾーニング実証-別産区での適用-: 丸山拓見 (精密林業計測株式会社) ら	B-11 輸用用材の資源確保を目的としたカンクン人工林の協働管理の取組み: 若山学 (奈良県森林技術センター) ら	L-11 農業性害虫セノミガタチビタマムシの成虫の発生に早期除草が与える影響: 大津正嗣 (山梨県森林総合研究所) ら
14:45		W-3 ナラ枯れによる林冠消失が他樹種の林冠拡大に及ぼす影響: 奥山理珠 (東京農工大学) ら	E-12 ウシノキ林の最多密度と樹幹表面積一定則の検証: 眞坂一彦 (岩手大学) ら	A-25 森林関連ガイドアンケート結果から探る生態系サービスビジネス化の可能性: 高橋卓也 (滋賀県立大学) ら	D-28 近自然型森林管理における先導デジタル技術の活用可能性: 鄭述求 (東京大学) ら	B-12 林内作業道に関する人類的学的研究: 門馬漢次 (埼玉大学)	L-12 ヒロウドカミキリのエズリハ選好性: 江崎功二郎 (石川県農林総合研究センター 林業試験場) ら
15:00	大学見学ツアー (筑波大学 →17:00)	討論・調整	討論・調整	A-26 発表取り直し	討論・調整	B-13 地域交流が高くなる山菜・きのこ採取活動とコロナ禍の影響: 古川拓哉 (国研 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	L-13 カンノナガキクイムシの忌避によるナラ枯れ助長: 小林正秀 (京都府森林技術センター)
15:15		W-4 気候変動に伴う中部地方のブナ科3樹種における開芽時期の変化と将来予測: 水谷瑞希 (信州大学)	E-13 農地跡地での植栽木の成長と土壌の浸透能: 園田英夫 (鳥取県林業試験場)	討論・調整	D-29 生物多様性保全を考慮した森林ゾーニングの試行: 光田博 (宮崎大学)	討論・調整	討論・調整
15:30		W-5 気候変動下における都市温度指標値と機能群別バイオマスの変化: 釜山由紀 (岩手大学) ら	E-14 九州産スギ6品種の樹高と直径の関係: 品種試験地45年目の結果: 榎木勉 (九州大学) ら	A-27 現代の山村地域における子どもの遊びの実態: 長野山下水内都米村を事例に: 矢部瑞季 (東京農工大学) ら	D-30 古い空中写真による時系列3Dモデルの作成 一能登地域における事例-: 小谷英司 (森林総合研究所) ら	B-14 森林教育頻度と生きがい・幸福 感・自然への畏敬の念との関連: SLEPT Study: 森田えみ (国研 森林研究・整備機構) ら	
15:45		W-6 アンデス・アマゾン地域における山地森林生態系の森林劣化評価: 富本和樹 (国研 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	E-15 セノキ人工林における開伐強度の違いが20年後の林床植生に及ぼす影響: 市栄智明 (京都府立大学) ら	A-28 中山間地域における高齢者の買い物・通院支援はどうあるべきか: 高野涼 (弘前大学)	D-31 機械学習を用いた樹木の鳥可における森林・農地変遷の時系列解析: 中條裕太 (島根大学)	B-15 都市・都市近郊・地方域における森林への関心・訪問頻度に関する比較: 小田龍聖 (森林総合研究所) ら	
16:00		W-7 発表取り直し	討論・調整	A-29 山形県内の有料わらび園の実地調査結果 (第一報): 栗田晋吾 (上智大学) ら	D-32 空撮データを用いたスギ人工林のクマ割ぎ被害水の特徴抽出の検討: 田和佑信 (富山県森林水産総合技術センター) ら	B-16 都市緑地の経済価値評価: 札幌市を対象としたヘッドニク法による分析: 森田真輝 (北海道大学) ら	
16:15	討論・調整		A-30 国内の山地放牧の存続条件について-兵庫県美鈴郡を事例として-: 藤井希美子 (東京農業大学) ら	討論・調整	討論・調整	討論・調整	
16:30	W-8 階層構造に着目したササ亜型冷温帯成熟林における葉群の空間分布と変動: 植田時 (筑波大学) ら			討論・調整	D-33 スマート林業を用いた大学発スタートアップの山村課題への挑戦II: 加藤正人 (信州大学) ら	B-17 i-Treeによる文化的価値評価のための3次元データを用いた景観解析: 齋藤拓海 (千葉大学) ら	
16:45	W-9 樹種によって異なる日本の森林の堆積有機物層の厚さ・量: 眞中卓也 (森林総合研究所) ら			A-31 生成AI二重サンプリングによる県議会議事録の森林環境議事録と点検構造解析: 大森宏 (東京大学) ら	D-34 発表取り直し	B-18 最久根の選好する生態系サービスに対する住民の選好: 豆野純太 (北海道大学) ら	
17:00	W-10 累積的な採食影響下での開伐が林床植生の機能的役割に及ぼす効果: 谷脇徹 (神奈川県自然環境保全センター) ら			A-32 都道府県による森林環境課与税の使途の定量分析: 箱川武 (東京大学) ら	D-35 バイオマス燃料製造を主とした林業の収益性分析: 小川朋大 (芝浦工業大学) ら	B-19 クマ出没急増をめぐる一般市民の認識と対策への評価: 庄子康 (北海道大学) ら	
17:15	W-11 佐渡島の天然スギの成長特性-多雪山間での比較から-: 梶本雄也 (新潟大学) ら			A-33 近代林田地域の国有林経営における森林保護と労働力確保: 芳賀和樹 (法政大学)	D-36 ネイチャーポジティブな未来へ: 森林生態系サービスのシナリオ分析: 山田祐亮 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	討論・調整	
17:30	討論・調整			討論・調整	討論・調整		
17:45							
18:00							
18:15							
18:30							
18:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月18日午後 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	S5 地域フォレスター	遺伝・育種2	微生物2			防災・水3	教育2
14:15	SS-1 日本型フォレスター再考：森林・林業再生プラン時からの状況変化を踏まえて：相川高信 (PwCコンサルティング合同会社)	F-10 クリーナーチ1粒接種によって1年でコンテナ苗を育苗する技術：中川昌彦 (北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場)	M-10 Light-mediated responses in ectomycorrhizal fungi; コンソウワタナーゴブタム (東京大学) ら			J-20 航空機LiDARによる森林火災焼損範囲の抽出：高貴潤一 (エアロトヨタ株式会社) ら	C-4 一般向け森林学入門書の制作の試み：園原夏 (日本大学) ら
14:30	SS-2 民間フォレスターの必要性：小森嵐樹 (フォレスターズ株式会社)	F-11 カラマツ種子の成熟時期の変異：生方正俊 (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター北海道育種場)	M-11 Comparative Single-Reference and Graph Pangenome GWAS of Ectomycorrhizal Formation in <i>Cenococcum geophilum</i> ：孔徳寧 (東京大学) ら		学会企画2	J-21 林野火災が斜面・流域スケールの水・土砂移動に与える影響：恵田祐一 (筑波大学) ら	C-5 リイセンスカフェは進化する：崎尾均 (新潟大学)
14:45	SS-3 片品村での活動について：黒沢秀基 (フォレスターズ株式会社)	F-12 青森県十和田市のカラマツ採種園における採取時期別の種子の発芽特性：中島剛 (青森県産業技術センター林業研究所) ら	M-12 Identification and functional analysis of long non-coding RNA involved in ectomycorrhizal formation in <i>Populus tomentosa</i> ：楊益薇 (東京大学) ら			J-22 愛知県豊田市のヒノキ人工林における間伐前後の水資源機能の変化：フアラナクモイン (東京大学) ら	C-6 鳥の鳴き声学習Webツールの開発と評価：種別別能力と意識は変化する？：小川結衣 (筑波大学) ら
15:00	SS-4 現場に寄り添う森林づくりの技術：小山泰弘 (長野県林業総合センター)	討論・調整	M-13 Functional exploration of candidate genes related to ectomycorrhizal formation in <i>Populus tomentosa</i> ：劉穎 (東京大学) ら			J-23 土壌水分観測による林内水収支の推定と間伐の影響評価：若本樹里 (筑波大学) ら	討論・調整
15:15	SS-5 5年目に入った奈良県独自のフォレスター制度について：藤平拓志 (奈良県庁)	生理	討論・調整			討論・調整	C-7 森林環境教育プログラムが子どもに与える効果：田村大樹 (東京大学大学院) ら
15:30		G-1 Flavodiiron遺伝子を欠損させたゾノム編集スギの光合成特性の解析：深澤真一 (森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら	M-14 人工地盤と自然土壌に生育するイロハモミジに共生するAMF群集の比較：伊藤友 (東京大学大学院) ら			J-24 Transpiration Dynamics of Tropical Forestry Species under Varying Meteorological Conditions in Sabah, Malaysia：ナイナールアナン (Universiti Malaysia Sabah) ら	C-8 東京大学演習林における多層的森林教育の実践と連携：李婉 (東京大学) ら
15:45		G-2 樹木個体への力学的ストレスは呼吸増加による成長飽和をもたらすか：森茂太 (山形大学) ら	M-15 環境条件の異なるヒノキ天然林と人工林のアーバスキュラー菌根菌群集：高瀬岡 (東京大学) ら			J-25 遮断高発の主要メカニズムは根体蒸発：村上茂樹 (森林総合研究所)	C-9 森林環境下における課題解決型体験活動の効果：山縣みる子 (北海道教育大学岩見沢校) ら
16:00		G-3 越冬ツバキ花芽の凍結様式のMRICによる可視化：石川雅也 (東京大学大学院) ら	M-16 屋久島の人工林と天然林のSGIに関わるアーバスキュラー菌根菌の群集構造：松田陽介 (三重大学) ら			J-26 伐業シュートの雨水保持・排水特性における樹種間差異の実験的検討：南光一樹 (東京農工大学) ら	討論・調整
16:15		G-4 秋施肥が養分状態のよいスギコンテナ苗の耐凍性に及ぼす影響：飛田博順 (森林総合研究所) ら	M-17 秩父山地の亜高山帯林におけるイワダレゴケ茎葉体上の菌類群集の遷移：金子拓未 (東京大学大学院) ら			討論・調整	C-10 森林と有機的に繋がる体験プログラムの検討—森林レンタルの活用を通して：中村和彦 (東京大学) ら
16:30		討論・調整	討論・調整			J-27 Effects of forest stand structure on throughfall erosivity and model development in Japanese cypress plantations：全慧旻 (九州大学) ら	C-11 自然観察のあり方を理解する森林環境教育プログラムの効果：山田亮 (北海道教育大学) ら
16:45						J-28 森林回復流域における年高発散の量変動に外的環境要因が及ぼす影響：成果と教育効果の検証：中山純之 (同志社大学) ら	C-12 ケニア社会林業プロジェクトの成果と教育効果の検証：中山純之 (同志社大学)
17:00					J-29 林内における雨滴径の鉛直変化に着目した遮断蒸発メカニズムの検討：鈴木梨花 (宇都宮大学) ら	C-13 世界遺産の森の価値を学び、伝える解説活動のあるべき姿：大島順子 (琉球大学) ら	
17:15					J-30 モンゴル森林—草原エコトーンにおける永久凍土活動層と植生土壌構造の関係：志村佳祐 (名古屋大学) ら	討論・調整	
17:30					討論・調整		
17:45							
18:00							
18:15							
18:30							
18:45							